

「夢があることに支えられました」

これは、先日当センターで開催した「読書ボランティア研修会」で講演いただいた岩手出身の絵本作家 千葉 智江（ちば ともえ）さんの言葉です。



千葉さんの絵本

・『みずうみ』（大日本図書 2014）

・『はなちゃん おとなになります』（小学館 2018）は、いずれもご自身が絵も文も手がけたものです。講演の中で千葉さんは、瑞々しい、ほっとする印象の絵と柔らかな言葉で紡がれた両作品ができるまでを、穏やかな口調で語ってくれました。

千葉さんは、幼い頃、寝床で母と姉妹との川の字で読み聞かせをしてもらった日々から、「本が好き。いつか絵本をつくりたい」と自然に思うようになっていたそうです。

そして、絵本を手作りしたり、文芸誌に投稿したりするうちに、作品を生み出す喜びを味わうことができたそうです。しかし、自分の夢を口に出せず、具体的にどうすればよいかわからなかった時、「進路希望調査」という用紙に、何度も現実に引き戻され、戸惑い、不安になったそうです。そんな時、いつも心の支えになったのは「私には夢がある」「私には本がある」という思いだったそうです。

千葉さんは悩んだ末、大好きな作家の本の奥付で見つけた横浜国立大学教育人間科学部へ進学します。読み聞かせサークルに入るなどしながら絵本に関わる活動に充実感を持ちながらキャンパスライフを送ります。しかし、今度は「就職活動」という人生の選択を迫られます。悩んだ末、ある絵本のワークショップに参加することが「自分の就職活動」と決め、遠距離を物ともせず通ったそうです。そこでは、絵本の作り方や書き方を教えられたわけではなく、「一番大切なところは、自分で決める」ということを学んだということです。

絵本は、出版するまでに、編集者からいろいろな意見や要望が出され、相談によって少しずつ変化しながら出来上がっていくのだそうですが、「自分で選択したという自信」は今もその時の経験が拠り所になっているとのこと。

さて、そろそろ「進路希望調査」の用紙にたじろぎ、戸惑っている中・高校生は決して少なくないでしょう。自分の夢と、そこへ向かう道筋をはっきり描けていればよいのですが、「好きなもの」に出会い、それを生業にできるかは、別の話と思われれます。思春期は、現実と自分の限界が見えてくる「夢壊しの時期」とも言われれます。

思春期の重要な課題でもある「自分の限界を知ること」は、全て自分の力でコントロールできるわけではないということを認めなければならないということでしょう。そこには、本人の「あきらめる勇気」と「前向きな姿勢」、今できることにベストを尽くすという気持ちの整理が必要になってくると思われます。

その際、親はその子を見守り、寄り添いながら一緒になって方向性を考える姿勢が大切ではないでしょうか。【Ｙ】

○メルマガで取り上げて欲しい内容やご感想など、下記アドレスにお寄せいただければ嬉しく思います。(アドレス登録又は配信停止もこちらからどうぞ(^_^))

mailto:kosodatem@pref.iwate.jp

○メルマガのバックナンバーを当センターHPで閲覧することができます。

アドレスはこちら

「まなびネットいわて」(<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>) > 「発行物・刊行物」
> すこやかメルマガ

これからも、どうぞよろしくお願ひします(^_^)/

【発行】

岩手県立生涯学習推進センター

025-0301 花巻市北湯口 2-82-13

TEL 0198-27-4555

URL:<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/> 「まなびネットいわて」で検索